

創世記60 創世記47章1節～31節

「ゴシエンの地への定住」

イントロ：

1. 文脈を確認する。

- (1) ヤコブの一家がエジプトに移住した。
 - (2) ボーダーラインを越えた時には、洞察力が必要。
- (3) パロとの会見で今後の運命が決まる。
 - (4) 一家の移住は、きさんの2年目に起こった。
 - (5) 創47：13は、きさんの最初に戻っている。

2. メッセージのアウトライン

- (1) ヨセフの洞察力 (47：1～12)
- (2) ヨセフのビジネス倫理 (47：13～26)
- (3) ヤコブの信仰 (47：27～31)

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 寄留者としての自己認識
- (2) 寄留者の実生活
- (3) 寄留者の目指す地

このメッセージは、寄留者がいかに生きるべきかを教えるものである。

I. ヨセフの洞察力 (47：1～12)

1. パロの許可なしには何もしない。

- (1) すでにパロはヨセフの家族の移住を歓迎していた。

2. 兄弟5人をパロに紹介した。

- (1) 年齢順か、見かけによる選びか？
 - (2) いずれにしても、5人が一家を代表した。

3. 羊飼いと職業の強調

- (1) ヨセフは、パロが最初に職業について尋ねることを知っていた。

- ①勤勉でない寄留者は、居候となり迷惑。
- ②ヨセフのように有能な人物がいれば採用したい。
 - (2) 兄弟たちの回答
 - ①先祖の時代から羊飼いである。
 - ②「この地に寄留しようとしてまいりました」
 - * 寄留者としての自己認識
 - * いつか、カナンの地に帰還するとの決意
- ③「ゴシェンの地に住まわせてください」
 - * エジプト文化からの隔離
 - (3) パロの裁定
 - ①ゴシェンの地に住むようにせよ。
 - ②有能な者がいたら、家畜の管理を任せる。

4. 父ヤコブを紹介

- (1) すべてが決着してから父を紹介している。
- (2) 「ヤコブはパロにあいさつした」(祝福した)。
 - ①地上の権威と神の国の権威の対比
 - ②上位の者が下位の者を祝福するのである。

5. パロの質問

- (1) エジプトでは長寿は珍しい。
- (2) ヤコブの外見は、エジプトでは見かけないような高齢。

6. ヤコブの答え

- (1) 「わたしの旅路の年月は130年です」(新共同訳)
 - ①寄留者としての自己認識
- (2) 「わたしの生涯の年月は短く、苦しみ多く」(新共同訳)
 - ①永遠の視点から見ると、わずかな年月である。
 - ②「苦しみ多く」と「ふしあわせ」とは違う。
 - * 兄との葛藤
 - * 伯父のラバンとの葛藤
 - * 愛妻を若くしてなくす
 - * ヨセフの死
 - * ベニヤミンを手放す決心
 - ③苦しみは、わずかな年月しか続かない。

*ロマ8 : 18

(3) 去る時も、パロを祝福している。

7. 洞察力の結果

(1) ラメセスの地を所有

①ゴシェンの地の中でも最良の場所

(2) ヨセフは全家族を養った。

II. ヨセフのビジネス倫理 (47 : 13~26)

1. 激しいききん

(1) 全地に食物がなくなった。

①エジプトの地

②カナンの地

(2) ヤコブ一家がエジプトに買い出しに来た背景がこれである。

(3) 暴動からエジプトを救ったのは、ヨセフの功績である。

(例話) 日本の米騒動

1890年富山県富山市から始まり、19個所で騒動が発生した。

1897年富山県魚津町から始まり、10個所で。

1918年（大正7年）日本史上最大規模の民衆暴動

第一次大戦後のインフレ（米価4倍）

富山県魚津の漁村の主婦たちが米の他県への移出を阻止。

第4期まで続く。参加人員は数百万人規模。

10万人以上の軍隊が出動。

寺内内閣が退陣し、原敬（たかし）内閣が誕生（政党内閣）

(4) ヨセフは、パロの利益を守りつつ、民衆に正義を行った。

2. 貨幣の回収

(1) 豊作の7年間に、穀物を購入し、貯蔵していた。

(2) その穀物を、利益を乗せた価格で売却した。

①諸経費、人件費を上乗せ。

②適度な利益を上乗せ。

③民衆の側に不満はない。

(3) 集まった銀をパロの口座に入れた。

①アカウントビリティ

②次のステップに備えて財政基盤を充実させた。

3. 家畜の所有

(1) 6年目のことであろう。

①穀物を買う貨幣がない状態

(2) 「どうして私たちがあなたさまの前に死んでよいでしょう」

①ヨセフに力があることを認めている。

②ヨセフに憐みの心があることを認めている。

「あなたさまは、わたしどもを見殺しになさるおつもりですか」（新共同訳）

(3) ヨセフは物々交換を提案した。

①パロと民衆の間に立つ苦労がある。

②家畜を所有していても、見殺しにするだけ。

③民衆は喜んでその提案を受け入れた。

(4) エジプト中の馬、羊の群れ、牛の群れ、ろば、などがパロのものとなった。

4. 土地の所有

(1) 7年目のことであろう。

(2) 民衆からの提案

①銀と家畜は尽きた。

②からだは農地しか残っていない。

③農地を買って欲しい。

④自分たちは奴隷となる。

⑤種を下さい（ききんが7年で終わることを知っていた）。

⑥自分たちは死ななくてもいいし、土地も荒れない。

(3) エジプトの全農地がパロのものとなった。

①ヨセフは不道德なことをしているわけではない。

②民衆の苦境を助けつつ、パロの財産を増やしている。

(4) 例外は、祭司たちの土地

4. 農地改革（封建制の確立）

(1) 人口移動

①所有権の放棄を確定づけた。

②ヘブル人と同じように寄留者とさせる。

(2) 小作契約

①農地と種の供与

② 5分の1は税

③ 5分の4は彼らの取り分

*その中から、次年度の種を確保する。

*残りは生活のために用いる。

(3) この政策はそれ以降も続いた。「これは今日に及んでいる」

①モーセがこの書を書いた時代まで。

②出エジプト時代のパロは、ヨセフのことを知らなかったが恩恵を受けていた。

Ⅲ. ヤコブの信仰 (47:27~31)

1. 17年後

(1) イスラエルの民の人口増加

①出1:7につながる。

(2) ヤコブは147歳となり、死期が近づく。

2. ヨセフへの遺言

(1) 契約の形を取っている。

①ももの下に手を入れる。

②創24:2 アブラハムとエリエゼルの契約

(2) 「先祖たちとともに眠りにつく」

①死後の命の確信

②死は眠りである。

(3) 「先祖たちの墓に葬ってくれ」

3. 合意

(1) ヨセフは父に誓った。

(2) イスラエルは「床に寝たまま、おじぎをした」

(3) 神を礼拝したという意味。

結論：このメッセージは、寄留者がいかに生きるべきかを教えるものである。

1. ヨセフの洞察力（寄留者としての自己認識）

(1) アブラハム以来の民族の歴史の文脈を見る目

(2) 将来を見通す目

①エジプトは寄留の地

②必ずカナンの地に帰還する。

(3) 自らの役割を見る目

2. ヨセフのビジネス倫理（寄留者の実生活）

(1) 無私の心（アカウンタビリティ）

(2) ウイン-ウインの関係を作ろうとする。

(3) 憐みの心を示す。

3. ヤコブの信仰（寄留者の目指す地）

(1) 寄留者であることの表明

(2) 子孫の将来はカナンの地にしかないことを教える。

(3) カナンの地はより優れた都の雛型である。

①ヘブ 11 : 16